

まちのアルバム

▼9月16日 市役所

東京パラリンピックで見事入賞！！

東京2020パラリンピック競技大会（競泳）に日本代表選手として出場された福井香澄さん（小篠原）が結果報告に市役所を訪れました。

福井さんは、初出場の同大会で混合4×100mフリーリレー決勝4位、女子100m背泳ぎ決勝7位といずれも入賞。

「本番ではすごくリラックスして泳ぐことができました。」と大会の感想を話し、今後については、「3年後のパリ大会に向け、練習を頑張っていきたい。」と力強く語ってくれました。



市内小学校で奉仕作業

野洲市シルバー人材センター会員の皆さんが、奉仕活動として市内小学校6校で除草作業を実施されました。

この活動は、シルバー事業普及促進月間の取り組みとして実施。

そよ風が吹く校庭で、「子どもたちのために、いい汗かいてるよ。」と微笑みながら作業されていました。

10月12日 中主小学校▶



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(206)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

試行錯誤の銅鐸

—大岩山銅鐸6号鐸(袈裟櫛文銅鐸)—

滋賀県野洲市が誇る文化財、大岩山銅鐸が野洲市小篠原の大岩山で明治14（1881）年に発見されてから140年を迎えました。大岩山銅鐸は、日本の古代史を解き明かす重要な手がかりとして、全国的に注目されています。

弥生時代後期（約1900年前）になると集落の統合がすすみ、銅鐸は近畿地方を中心に分布する近畿式銅鐸と、東海地方を中心とする三遠式銅鐸の2つになります。大岩山からは両方の銅鐸を含む24個もの銅鐸が出土し、中には独特な特徴をもった銅鐸がいくつかあります。今回、ご紹介する大岩山6号鐸もその1つです。

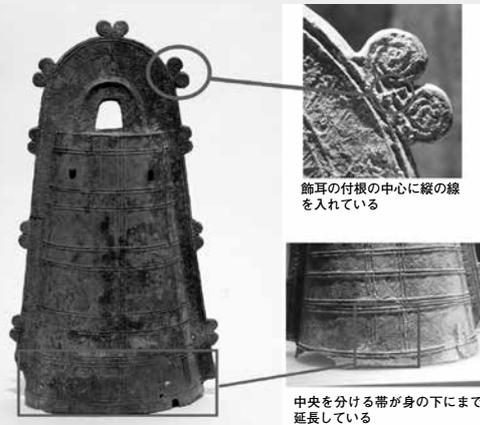
大岩山6号鐸は昭和37（1962）年に発見された、高さ55.4cm、重さ6.16kgある弥生時代後期（約1900年前）の銅鐸です。

通常、銅鐸の身の部分は縦と横の帯で、6つの区画がつくれます。しかし、6号鐸は縦の帯が身の下にまで延長し、まるで8区画に構成されているように見えます。

また、吊り手（鈕）の頂きと左右につく飾耳は付根の中心に縦線を入れ、鱗のノコギリ刃様の文様（鋸歯文）内の斜線数が少ないなど、原則が守られていません。

銅鐸の新しいデザインを考えようとしたのかは不明ですが、これらの特徴からは製作者の試行錯誤の様子を読み取ることができます。

大岩山銅鐸の中にみられる独自性は、それまで各地にあった集団がより大きな集団へと統合される過程の中で誕生したものであり、より広域な共同社会の新たなお祭りの道具として、新しい銅鐸が模索されたとみられます。



飾耳の付根の中心に縦線を入れている

中央を分ける帯が身の下にまで延長している

■秋期企画展「大岩山銅鐸の形成

—近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉— 開催中～11月28日(日)

※期間中の休館日：毎週月曜日、11月4日(木)、24日(水)

入館料：大人500円、学生350円、小人250円

※市民は入館無料（運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。）

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。